

時間消費に寄与する滞留空間の特徴に関する考察

—長崎さるくガイドへの調査に基づいて—

長崎大学工学部 学生会員○首藤 将希

長崎大学大学院工学研究科 正会員 石橋 知也

1. はじめに

1.1 研究の目的と背景

日々の生活でのストレスや運動不足が問題とされている現代社会¹⁾²⁾において、気軽に立ち寄れて、休憩スポットとして「時間消費」できる滞留空間の重要性がより高まりつつある。そうした魅力ある空間が発見されることによって、歩行促進やストレス発散にもつながり、生活の中でのゆとりや生きがいの創出へと波及すると考えられる。また、暮らしやすさや訪れる楽しさを支える公共空間はまちに活力を与え、賑わいづくりにも寄与すると考えられる。そこで本研究では、滞留空間における時間消費に寄与する空間の特徴ならびにその空間での行動等を把握すること、さらに、空間ごとに比較し周辺との関連性を捉えることによって、よりよい公共空間づくりに資する知見を得ることを目的とする。

1.2 研究の進め方

本研究では、「時間消費ができる公共空間」として「滞留空間」に着目し、上述の研究目的を踏まえ次のように進める。1) 現在ガイドツアーが行われている「長崎さるく」のまち歩きのうち4コース³⁾を選定する。2) 「通さるく」を担当する長崎さるくのガイド(以下、ガイド)に対するアンケート調査より、長崎のまちなかにおける滞留空間の抽出を行う。3) 抽出空間での人の行動や空間的特徴等を実際に観察し記録する。4) 滞留行動と周辺との関連性を分析し「時間消費」ができる滞留空間の特徴を考察する。

2. 調査対象地の選定と予備調査

前述した「通さるく」には5種のコースがあり、そのうち本研究の趣旨と合致しない「出島コース」を除外したため4コースを対象地とした(図1)。予備調査は、ガイドの方へのアンケートが可能な把握する目的で10月から11月にかけて行った(図2,3)。その際に観察できた滞留行動をまとめたものが表1である。また長崎さるくのガイドを対象にしたアンケート用紙を作成した。アンケートの設問は表2に



図1 調査対象とした全4コース

まとめている。本研究における滞留は「公共空間において座っているか立っているかを問わず、移動を止め、休憩や会話・飲食などの行為を行っているもの」と定義⁴⁾している。また、本アンケート調査の各設問の目的・意図は以下に示すとおりである。問1)～2)各ガイドと参加者での滞留空間抽出の相違点を把握するため2枚のコースマップを用いている。問3)～5)コース内を熟知すると思われるガイドの視点から公共空間について意見をもらうことで、公共空間を改善するための参考知見が得られると考えた。問6)～8)滞留の代表的な行動である休憩に着目し、その休憩がガイドによって促されるか、その休憩に適した空間の特徴はなにか、について調べることを意図した。問9)今後の公共空間づくりに寄与する滞留空間について検討するための参考知見の抽出を試みる。

上記のアンケート調査は、「長崎さるく」を実質的に運営する長崎国際観光コンベンション協会(以下、協会)に協力依頼し、協会での留め置き調査にて実施した。なお、協会には長崎さるくのガイドの登録総数や各コースのガイドの登録数、調査の手法等について従前のヒアリング調査にて把握を行っている。

3. 本研究の分析方法および考察

現段階では協会側の都合上、アンケート調査が完了していないため本研究における調査結果の整理や考察のポイントをまとめる。

3.1 予備調査の結果

表1に示すとおり、滞留行動は多様な状況が確認



図2 予備調査風景



図3 着座による休憩

表1 予備調査の結果

居留地コースで滞留がみられたスポットと滞留行動	
四海楼前 ・正面花壇沿いのブロックに腰を掛けている人 ・高層の像の前にも写真撮影をしている人	大浦天主堂の中 ・施設内には休憩ルームが影響しているのか ・展示品を見ている人以外は見られなかった
グラバー坂 ・通り沿いのお店前で留まり食べている人 ・お店の商品を外から見ている人 ・休憩をとるために集合している学生たち ・大浦天主堂の正面から写真を撮る人 ・案内板の前で周囲のスポットを確認する人 ・案内板の隣の段差に腰を掛ける人 ・通りの隣にある段差に腰をかけた休む人	グラバー園 ・喫煙所で煙草を吸う人 ・開けたところで景色を楽しむ人 ・案内板のまえでスポットの確認をする人 ・園内のベンチで休む人 (旧リンガー邸付近) ・飲食する人 (自由邸正面のスペース) ・池の鯉に餌をあげたり、眺めたりする人 ・記念写真を撮る人 (旧三菱第2ドックハウス)
中華コースで滞留がみられたスポットと滞留行動	
出島 ・腰掛に座る人 ・立って会話をしている女性の集団 ・川のをぞき込む男性	湊公園 ・段差に座る人 ・喫煙スペースで喫煙する人 ・ベンチに腰をかける人 ・門前で立ち話をする人
中華街 ・店頭の商品を見る人 ・店先で買った商品を食べている人	唐人屋敷周辺 ・他のガイド団体の話を聞く人々
龍馬コースで滞留がみられたスポットと滞留行動	
風頭バス停 ・バスをベンチに座って待つ人 ・バスを降りて携帯を立てさわる人	龍馬通り ・階段途中で休憩する人 ・景色を眺める人
風頭公園 ・丘のベンチに座る人 ・龍馬の像の前のベンチで会話をしている人 ・展望台で景色を楽しむ人	龜山社中 ・資料館前のベンチに腰を掛ける人
平和コースで滞留がみられたスポットと滞留行動	
爆心地公園 ・木陰のベンチ座って水を飲む人、携帯を触っている人 ・談笑する人、生徒を見ている人 ・足をくんで遠くを見る人 ・像の前に立って全体を眺めている人 ・先生の話を円になり聞いている生徒 ・周りの花壇部には子供を立たせて水分補給や休憩をさせている人 ・銅像の段差で休憩している人	平和公園 ・平和の泉入口部で座って休憩する小学生 ・円形の椅子で談笑する人 ・遠くを眺める人 ・出口付近で缶コーヒーを飲む人 ・出口付近で携帯を触る人 ・像の前に立ち眺める人 ・サイドのベンチで携帯をする人
大浦天主堂 ・カメラマンが正面から撮影する人 ・正面から眺めている人	山里小学校 ・防空壕前、修学旅行生が休憩、ノートを取っていた ・正面玄関 (靴箱がある) 前では、修学旅行生が円形になって先生の話聞いていた

表2 アンケート項目

設問番号	設問内容	設問番号	設問内容
問1	担当コースマップ①に「ガイドが滞留する空間」を○、「さくく参加者が滞留する空間」を△でプロット	問6	ガイドから参加者に休憩を促す場面の有無
問2	問1)で○,△をつけたそれぞれの抽出空間にて具体的な行動・考えられる理由・時間帯・季節の明記	問7	問6)で「ある」と回答した場合、「休憩場」を担当コースマップ②に◇でプロット
問3	「改善したら滞留行為が促進できると思う空間」の有無	問8	問7)で◇をつけた抽出空間にて具体的な場と選定理由の明記
問4	問3)で「ある」と回答した場合、担当コースマップ②に「改善したら滞留行為が促進できると思う空間」を□でプロット	問9	ガイドが考える「理想の滞留空間」はどのような空間か、行動と理想空間を対応した形で明記
問5	問4)で□をつけた抽出空間にて具体的な場と選定理由の明記	問10-14	フェイスシート (性別,年齢,ガイド志望理由,ガイド歴,ガイドの出身地)

されている。滞留では休憩に関する行動が主となり、休憩のなかでも着座行動は必ずしもベンチだけでなく、少しの段差を利用したものなどが見受けられた (図3)。また、景色を眺める休憩のほか、人の行動を観察する行動も確認された。

3.2 アンケート調査の分析と考察



図4 平和コースの調査結果の例

アンケートでは、ガイドと参加者のそれぞれの視線での滞留空間 (改善したい空間も含む) が地図に抽出される。記載される空間における滞留行動や時間帯などを加筆し引き出し線を用いて集約した地図として可視化する。その際に属性による傾向の違いも検討する。例えば、アンケートからは休憩行動や折りの行動の際に滞留することが把握されている。現段階でのアンケート調査結果を示す (図4)。

3.3 抽出空間の分析と考察

本研究で抽出された滞留には、ガイドの活動のなかで自然な流れで誘発されたものが含まれていた。今後は、このことを踏まえて、(1) 抽出空間自体の特徴 (構成、時間変化など)、(2) 抽出空間の周辺の特徴、(3) (1) と (2) における滞留行動、の3点について現地調査での観察に基づいて分析を進めながら総合的な考察を行う予定である。

参考文献

- 1) 厚生労働省健康局健康課：身体活動・運動を通じた健康増進のための厚生労働省の取組み, 2018, https://www.mext.go.jp/prev_sports/comp/b_menu/shingi/giji/_icsFiles/afieldfile/2018/11/01/1410412_03.pdf
- 2) 厚生労働省：「国民生活基礎調査の概要」, p.20, 2019
- 3) 長崎さるく <https://www.saruku.info/tsusaruku/>
- 4) 柿沼美紀・十代田朗・津々見崇：高齢来街者の滞留行動特性に関する研究, 都市計画論文集, No.43-3, pp.625-630, 2008
(上記ウェブサイトは2022年1月3日に確認した)